



神奈川県南足柄市の古屋富雄さん(67)は農家の人生をつづったCDを制作。売り上げの一部を障害者支援に充てる。▶14面



神奈川県南足柄市の古屋さん

田園回帰 歌に

優しい歌に乗せて「田園回帰」をアピール。神奈川県南足柄市で果樹農園を経営する古屋富雄さん(67)は一般財団法人「春めき財団」を立ち上げ、プロのアーティストと共に農家の人生や田園の持つ包容力をつづったCD「和(なご)み」を制作。売り上げの一部を視覚障害者への支援に充てている。

古屋さんは同市塚原地区で果樹など経営する。

2000年、早咲きの桜「春めき」を見つけて品種登録し育成者権を持つ。「春めき」は、花に香りがあることから、古屋さんは目の不自由

自ら作詞作曲 CD発売

な人にも桜の季節を感じてもらえるのではないかと考え、福祉施設などへの苗の提供も行ってきた。曲と詩は若い頃から作詞・作曲をしてきた古屋さん自身が作り、フルートとピアノの演奏活動をする雨宮悦子さんが編曲。歌は荒井由実さん(当時)のバックバンドなどに加わり、音楽活動を続ける平野融さんが担当。

1曲目の「田園回帰」田舎暮らし」では、「都会に求めたものは 家族を養うためのより良い生活」と始まり、都会に出て結婚、子育て、子供の独立後に田舎にもどった男性の、ともに歩んだ妻への感謝の気持ちでしめる。夏休みの思い出を歌う「ひまわり」では「入道雲は 大き

な 大きな 大きな かき氷」など歌詞が郷愁を誘う。全13曲で、農家の半生や農家の人々の絆を詩に込め、田園の素晴らしさを歌う。年配者も歌いやすい。CDは1枚2500円で、ネット通販のアマゾンなどで販売する。

同財団は小型無人飛行機(ドローン)を駆使した生前葬用のメモリアルビデオの制作も行い、収益を支援に充てる。ビデオの挿入曲も古屋さんの担当で、今回のCD発売は、財団の活動をさらに進めるためと位置付ける。

古屋さんは「都会に暮らす人たちにも、田園生活を想像できる歌にした。コロナの感染拡大など不安の募るときだけに、土の香りや古里の香りを感じる曲に耳を傾けて、心を休めてもらえたらうれし



桃の園地でCD「和み」を紹介する古屋さん
(神奈川県南足柄市で)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

発行所 日本農業新聞
〒102-8409 東京都千代田区一番町23番地3

www.agrinews.co.jp

2020年(令和2年)

5 12

火曜日